

報告 1

先生の活動量と子どもの体力

積極的に動く先生と子どもの体力は関連する!?

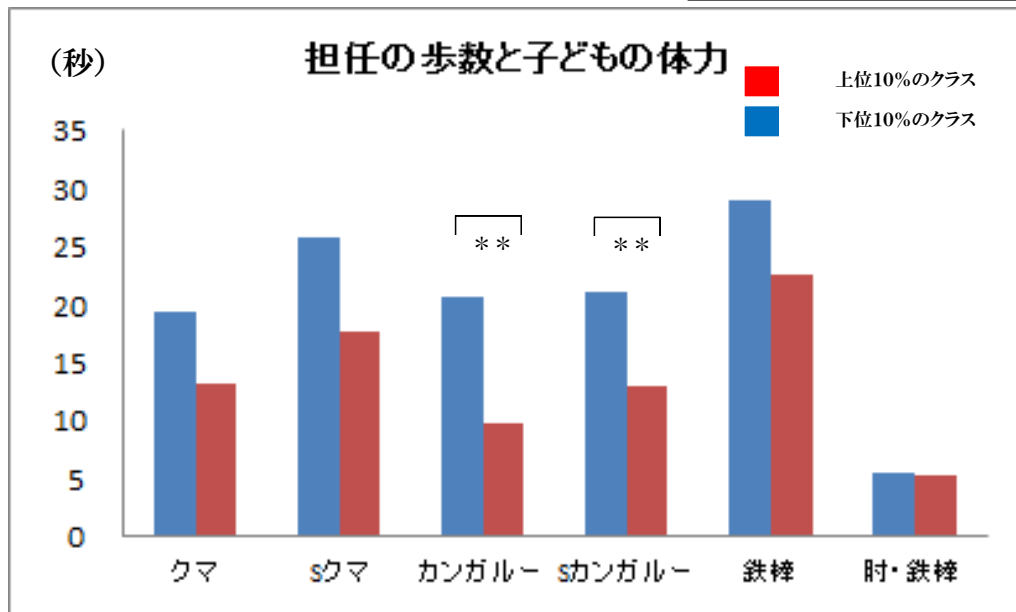
概要

子どもの体力運動能力を向上させるために、様々な取り組みがなされている。幼児期のうちから予防的な対策をすることの必要性も一部では提案されている。そこで、子どもの体力に影響をもたらすと考えられる担任の歩数との関連を検証した。その結果、特に積極的に動く先生のクラスは、そうでないクラスの子どもより運動能力が高いことが明らかになった。

実験の実施について

担任の先生に1週間万歩計を装着してもらい、1日の活動量を測定した。子どもの運動能力は、担任の先生がP9にある動きを園で実施した。項目によっては測定ができなかったもの、方法が分からなかったことにより未測定というものがあつた。これらは解析から除外した。上位グループは、上位6園のデータ、下位グループは、下位6園のデータとした。調査対象の園は57園である。

結果



有意差のあつた項目の測定値は以下の通りである。カンガルー（上位 vs. 下位：20.1±4.6 vs. 9.7±1.4）、Sカンガルー（21.0±3.8 vs. 12.9±1.1）。

Sクマ:ジグザグクマさん, Sカンガルー:ジグザグカンガルー, 肘・鉄棒:肘を付けてぶら下がり
(*: p < 0.05, b: p < 0.1)

ポイント

上記のグラフで、クマ、Sクマ、カンガルー、Sカンガルーは、10mの距離をいかに速く進むことができるかを示している。担任の歩数が多い（上位10%のクラス）ほうが子どもたちの運動能力が高いことが分かつた。

鉄棒、肘・鉄棒は、どれだけ長くぶら下がっていられるかを示しているので、長い時間のほうが成績が高いことになるが、差はみられなかつた。